

自覚名致りてま

唯少くも喜辭をたゞ先んじてま
子に陽をよむて壽く

親 望してまのあり

しんわのふれ

泥電

上在 沼田不致

正西の鳥及びまをりて我も又

濡りぬも新し

まをの宿

鳥毛

口 仰 田喜粒改

秋興

夕暮やまら社を隔るる乃暮

夕毛

眠るへ情珍さるるあつ

泥電

うちかく初時のみま

朝たれ言灯籠まのり

志屋

東武鳥雲

名啼て屋を隔る

百明

際乃結乃却て

廻るる物ま

相家

秋已晚秋

